

認定NPO法人

多文化共生センター東京 ニュースレター

Multicultural Center TOKYO News Letter

学びあい、わかりあう

# mingle

みんぐる

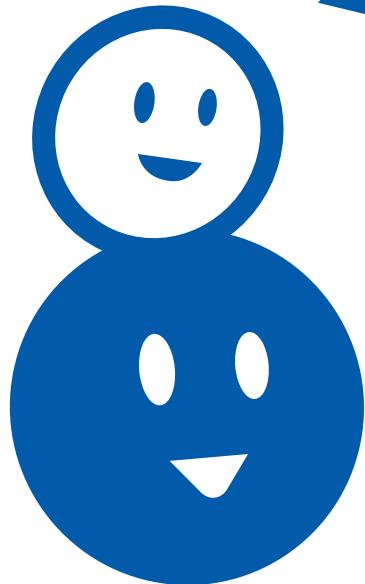
2015.4  
Vol.48

Top News  
2014年度を  
振り返って

Future  
2015

2014

Future



## 特集 たぶんか フリースクールの思い出

<http://tabunka.or.jp/>

多文化共生センター東京

検索

多文化 VOICE 4

卒業生の今＆インターンの声 5

たぶんかフリースクールの毎日 6

ボランティアの活動報告 8

いいね！多文化共生センター東京のできごと 9



認定NPO法人

# 多文化共生センター東京の紹介

Multicultural Center TOKYO®

## 私たちのビジョン

私たちは、国籍や言語、文化の違いをお互いに尊重する社会を目指しています。  
外国にルーツを持つ子どもたちの教育、とくに高校進学に力を注いでいます。

私たちが思い描く多文化共生社会とは、国籍や言語、文化、民族などの異なる人々が、互いの違いを認め、対等な関係を築こうとしながら共に生きていく社会です。外国にルーツをもつ人々が、不当な社会的不利益をこうむることなく、また、それぞれのアイデンティティを否定されることなく、社会に参加することを通じて実現される、豊かで活力ある社会です。多文化共生社会を実現するためには、以下の3つの視点が必要だと考えます。

### 基本的人権の尊重

「ことば」「制度」「こころ」の壁に起因する社会的不公平によって、誰もが等しく持つ権利が損なわれる不公平を是正する

### 少数者への力づけ(エンパワメント)

自分の文化や言語を享受できる環境づくりや安心して自分を出せる居場所づくりにより、少数者自らが自分自身を支えていく

### 社会へのアプローチ

「日本人」・日本社会が少数者の置かれている状況を理解するとともに、多文化共生社会の意味や大切さ、(大変さ・楽しさ)を理解し、多数者である「日本人」も変わり、少数者とともに生きていく。

## 私たちのミッション

外国にルーツを持つ子どもたちの教育を受ける機会の拡大に努めます。

教育実態調査、多言語高校進学ガイダンス、「たぶんかフリースクール」の実践など、外国にルーツを持つ子どもたちの日本語・教科・高校進学支援を通して、外国にルーツを持つ子どもたちを正規の学校へつなげます。

外国にルーツを持つ子どもたちがそれぞれの持つ個性や能力を発揮し、  
日本社会で活躍できるような教育の実現に取り組みます。

「たぶんかフリースクール」での日本語・教科・キャリアデザイン教育、行事・イベントなどを通して、外国にルーツを持つ子ども達が日本の社会で各々の個性や能力を発揮できるようサポートします。

国籍、言語、文化の違いを認めてお互いを尊重する教育の実現に取り組みます。

講演やワークショップ、イベント、広報活動、教育実態調査、ボランティア機会の提供により、多文化共生の理念を広く社会に広げます。

## 私たちの取り組み

外国にルーツを持つ子どもたちが毎日通え、日本語や教科を勉強できる学びの場を提供しています。

### :たぶんかフリースクール

主に学齢超過生徒や母国で中学を卒業した生徒を対象に、高校受験を目指した学習をサポート。荒川区内の中学校に通う来日後間もない生徒への日本語指導。

多くの皆さんに知っていただくための  
働きかけをしています

- : 外国にルーツを持つ子どもへの教育実態調査
- : 研修会・セミナー・ワークショップ等への講師派遣、人材育成、自主セミナー
- : メールマガジン、ブログ、ニュースレター「みんぐる」の発行

外国にルーツを持つ親子へ、多言語で教育に関する情報を提供しています

### :教育相談

### :多言語による高校進学ガイダンス

ボランティアとして多くの方に関わっていただく機会を提供するとともに、子ども一人ひとりへきめ細かいサポートを行っています。

### :子どもプロジェクト(学習支援)

毎週土曜日、中高生を対象に日本語や教科をボランティアが一对でサポート

### :親子日本語クラス

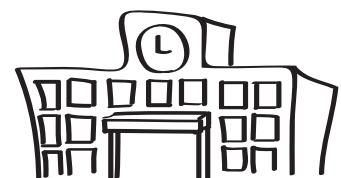
毎週土曜日、小学生以下の子どもへは日本語や学校の勉強、親へは生活に必要な日本語を一对でサポート

# Top News 2014年度を振り返って

2014年度も多くのご支援をいただきまして、「たぶんかフリースクール」では、荒川校35名、新宿校19名が高校に進学しました。4月より、高校1年生として新たな気持ちでスタートを切っています。「たぶんかフリースクール」で学んだ子どもたちは、年間延べ人数で80名以上にのぼります。この中には、学齢超過の子どもたちはもとより、小中学校編入前に日本語が少しでもできるようになってから学校に入りたいという切実な要望で受け入れた学齢の子どもたちもいます。

また、来日した子どもたちや保護者が、まず必要とする学校教育や日本語学習についての問い合わせも140件以上にのぼりました。都内に限らず東北や九州、さらに海外からの相談もありました。学びの場と適切な情報取得が、どれだけ大切で必要とされているかをあらためて考えさせられる一年でした。

2014年度は、公的助成として受けていた「虹の架け橋事業（定住外国人の子どもの就学支援事業）」（文部科学省の拠出を受けた国際移住機関（IOM）から受託）の終了年度であったため、昨年4月に「虹の架け橋教室」受託団体の皆さんと「学齢超過の子どもたちの学ぶ権利」について考えるフォーラムを開催したり、行政等へ事業継続の働きかけをしたりと学齢超過の子どもたちの状況について声を届けてきました。こうした多くの皆さんの働きかけにより2015年度も、後継事業で、学びたくても入れる学校のない学齢超過の子どもたちが積算対象であることは、成果ではあります。しかし、助成方法がかわり、事業主体が自治体となったため、自治体との連携が必要となりました。受託にあたり学校教育に在籍できない既卒の学齢超過生は、自治体の中に担当部署がないため、自治体との連携は困難で、大きな壁にぶつかっているのが実情です。



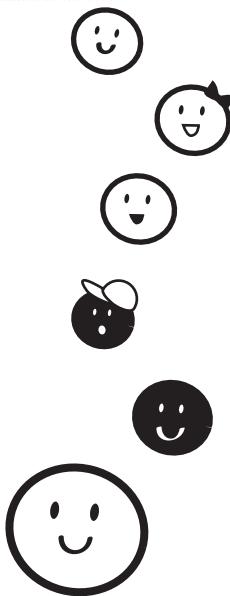
## 2015年度について

4月、気持ちもあらたに新年度が始まりました。荒川本校10名、新宿校10名の計20名で各校2クラス編成のスタートとなりました。子どもたちの国籍は、中国、フィリピン、ミャンマー、アメリカ、コロンビア、日本と多様です。

今年度は、公的助成のない中でのスタートであり、さらには、全日制高校の入試科目が5教科に変わるなど多文化共生センター東京にとって、試練の年でもあります。しかし、子どもたちには、昨年度と同様に週20時間の授業を提供していく方針です。また、子どもたちの学習支援、居場所としての大きな役割を果たしている土曜ボランティアの皆さんといっそうのご協力をいただければと思っております。

学齢超過の子どもたちへ認められている公的支援の施策が言葉だけに終わることなく、本当に子どもたちにとって実体のある運用となるよう求めていきたいと思います。

(木村)



# 特集

## たぶんかフリースクールの思い出

**最**初、私は何もわからなかつたので、とてもシャイで、緊張していました。わたしはみんなと話したかったです、なんと言つたらいいかわからた。それがわかつたとき、私は黙つたままですが、笑うことがなかつたです。それがわかつたとき、私は黙つたままですが、笑うことができました。先生たちはわたしの日本語が上手になるようにサポートしてくれました。私は少しずつ勉強して、日本語がわかるようになりました。今、わたしはクラスメートと話すことも一緒に笑うこともできます。

**多**文化へ来る前、私は日本語学校で勉強していました。みんなは全部留学生です。私だけが高校に入りたかったです。しかし、多文化へ来たとき、みんなは全部同じです。みんな高校に入りたい、年齢も同じ、話題がありました。授業のとき、みんなと先生と一緒に冗談をいって、とても面白かったです。

**9**月23日ユースフェスタがありました。私はパキスタンの洋服を着ていた。みんながすてきと言いました。多文化をさよならしたくないですけど、生活は続いていきますからしょうがないです。私は多文化とこの先生を本当に心から愛しています。

**多**文化ではいろいろな学校行事に参加して、日本でも生活がもっと面白くなり、多くの友だちもいました。親友と呼べる友だちもいました。「多文化の一年間が早いな」と思つて、時が遅くなれ、またみんなと勉強したいです。

**た**ぶんかフリースクールにはいろいろな国の人があります。言葉も習慣も違います。でも、すぐに仲良くなりました。私は大切な友達を二人つくりました。二人は私の「宝」です。これから違う高校は違つても、ときどき会おうねと約束しました。

10月は鎌倉に遠足に行った。私の故郷ネパールには海がない。遠足で私の人生で初めて海を見た。海は広くてとてもきれいなのでずっと見たかった。遠足はグループで行動したのでみんなのことが良くわかった。もっと仲良くなった。

私は多文化フリースクールで「言葉」をもらっただけでなく、夢を持つことも習った。私は将来社会に貢献したい。この世界で貧しい生活をしている人々のために役に立ちたい。先生の話で影響を受け、目標を持つようになった。多い。文化で過ごした一年は私にとってとても大事な経験だ。

多文化で経験したことは忘れられません。多文化を見つけられなかつたら、私は日本語ができなくて、高校に入ることができなかった。本当にありがとうございます。

ぜつたまにかかるために毎日言葉を暗記して、僕は少しずつ作文がかけるようになった。この過程はとてもつらかったけど、自分の夢をかなえるのが近い感じがした。受験が終わった時、心が塞ぐ感じがなくなった。僕は受かった。とても感動した。家に帰つて山のように書いた作文用紙を全部捨てた。高校は私の夢を叶えるための第一歩だ。僕は夢を実現するまでは頑張るつもりだ。

多文化の勉強の日は本当にうれしいです。一緒に鎌倉遠足へ行きました。一緒にGAPへ行きました。一緒にクリスマス会へ行きました。一緒にたぶんかユースフェスタに行きました。これらの思い出はとても大切です。

# 多文化 VOICE

## Norman NAKAMURA / 中村ノーマン さん

(カナダ国籍・第9期外国籍県民かながわ会議委員長)

10歳で来日、民間企業に勤めながら、多文化の子ども達も家庭も支援し高校卒業を応援

～はじめに～

川崎市外国人市民代表者会議との出会いで、外国人が社会を良くするための活動にかかわる大切さに気づきました。今は、神奈川県で多文化の子ども達の高校進学問題の研究と解決に向けた実践に取り組んでいます。多くの人々と関わりをもち、多文化共生の社会（多様な人々が共に生きる社会）の推進が、日本の豊さにつながると信じて活動しています。

私は、カナダで生まれ 10 歳の時に両親の都合で日本にきました。カナダでは、日本語を使うことはありませんでした。日本語を知らず、英語で会話し英語で学習していました。

来日後、入学した小学校の教員から母語を大切にした日本語学習の取り出し授業を受け、放課後の学習支援の取り組みで、成長するための生活言語と学習言語の足がかりができました。中学に入ってからは、親が準備した放課後の環境で教科学習の支援を受けました。家庭の中で母語の指導と母文化の理解を深める子ども時代を過ごしました。それでも、自分らしい成長をしていることを感じる子ども時代ではなかったです。工学系の大学・大学院を経て、民間企業に就職して最先端技術の開発に携わる仕事をしながら、社会活動をしています。

～高校進学問題～

委員長も務めた川崎市外国人市民代表者会議で、家庭の中の母語教育が成功しないことを知り、自分が恵まれていたと実感しました。多文化の子ども達と関わる中で、元気にふるまっている子ども達が学習には参加できていないことを再確認しました。知り合った子どもの相談を通じて、家族の収入や生活

状況を知る機会がありました。生活の支援がなければ子どもの学習が進まないと認識しました。時間はかかりましたが、自分の子ども時代の苦労が活かせると認識しました。自分の持っていた学習の課題を思い出し、取り組んでいくことが社会のためだと考えました。

生きて行くためのモチベーションを持ち、前に進む自信を子ども達に持って貰うことで、高校に入り、勉強を通じて成長が可能となります。卒業できなければ、人生の選択肢はとても狭いのです。正規職につき、家族を持って「普通に生きる」ことはとても大切ですが、高校に進学できなければ達成は難しく、高校進学は重要な問題です。殆どの子が高校進学を果たす中、神奈川県の外国籍の子どもが公立高校に入る率は 32% と推定されています。このことを改善したいと思いました。

私の学習支援活動は地域の小さな活動ですが、神奈川県教育委員会や NPO 法人多文化共生教育かながわと共に高校進学ガイダンスを開催しています。通訳を介して、中学世代の子ども達とその保護者に高校進学の制度を紹介し、高校の教員に相談する場を作っています。毎回たくさんの参加があり、公立高校進学に役立っていることを支援している子ども達を通じて実感しています。

～最後に～

私は、良い社会に変わって欲しいと願って種々の活動や学びをしています。2015 年 3 月に多文化共生センター東京を訪問した際、運営する方と支援を受ける方を見て、頑張って欲しいと思いました。社会が大きく変わることはなくても地道に小さな取り組みから変化があると確信して活動しています。



## 「バベルの学校」

監督：ジュリー・ベルトゥシェリ 2013年 / フランス / 全国各地でロードショー中

世界中からパリにやってきた10代前半の子どもたち24人が中学校の適応クラスで過ごす1年を追ったドキュメンタリー。2015年1月末に公開後大反響を呼び、現在（2015年3月末時点）、全国各地で公開されている。

子どもたちは、家庭の事情や亡命などさまざまな理由でフランスにやってきたが、どの子も自分の意思ではなく、親やまわりの大人に従って渡仏した。宗教やバックグランドがさまざまな子どもたちは、真正面から違いにぶつかり口論におよんでしまうこともある。それでもみんなで旅行にいけばはしゃぎ、クラスメートのチェロのパフォーマンスに大喝采を送る。彼ら・彼女らからあふれるエネルギーの力強さ。ああ子どもって本来こんな力強いエネルギーを持っているのだとあらためて感じた。人と違っても、違いに悩んでもありのままの自分でいられる。この適応クラスはそんな場所だ。それはブリジット・セルヴォニ先生が子どもたちを導き寄り添い向き合って作り上げたクラスだからなのだろう。ブリジット先生が昨年来日した際、幸運にも「たぶんかフリースクール」で特別授業をしてくださる機会があった。その時の先生のまなざしがとても優しく、一瞬にしてクラスにあたたかな空気がながれた。こんな先生が学校にいたらどんなに子どもたちは心強いだろう。

ぜひ多くの人に24人の生徒とブリジット先生の1年を見てほしい。そしてこの日本にも彼ら・彼女らと同じようにさまざまな国からやってきた子どもたちがいることにも関心を持ってもらえたと思う。（柴山）

公開劇場はオフィシャルサイトでご確認ください。<http://unitedpeople.jp/babel/>

4月1日より上映会の開催も可能です。



配給元ユナイテッドピープル



2008年たぶんかフリースクールの卒業生の戸張です。私は2013年5月に王先生に声をかけられて、多文化共生センター東京のインターンを始めました。インターンに入る前に事務職系の仕事をやったことがなかったので最初は不安、不明なところがたくさんありました。特に電話の応対や送付状などの文章を作る作業に自信がありませんでした。少しずつ仕事に慣れてきて、いつの間にかホームページの更新までできるようになりました。インターンをやって楽しかったことは数え切れないほどあって、インターンの日を毎回楽しみにしていました。その理由は生徒たちの元気にあると思います。日本に来て間もない生徒たちがたぶんかフリースクールで一所懸命日本語を勉強している姿を見ると自分の7年前を思いだし、生徒たちの先輩としてサポートしてあげたいという気持ちが強かったです。私は多文化共生センター東京で、フリースクールの先輩として生徒に自分の学生経験を教えながら、インターンとして社会人の勉強をたくさんさせて頂きました。一石二鳥のような経験で本当に感謝です。この約2年間のインターン期間は本当に貴重な経験だと思います。

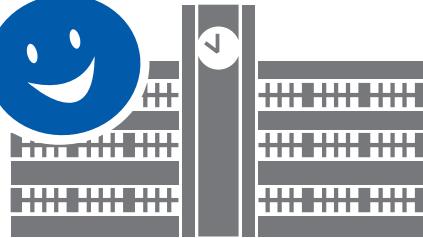
そして、次のステップに進むためにインターンを卒業しないといけないことになりましたが、多文化共生センター東京で学んだことを活かして、将来、また多文化共生センター東京に貢献したいと思っています。

皆様、本当にありがとうございました。

# たぶんか フリースクール

## 毎日

TABUNKA  
FREE SCHOOL



### <たぶんかフリースクール(荒川校)>

誰もいなくなった教室で掲示物を剥がす手を止め、ふと窓の外を眺めると水面に光がキラキラ反射して、ここにもうすぐ春満開の予感。いったい何事が起きたのかと思うくらいの笑い声と雄叫びがおなじみになっていた我がクラスももう静まり返っています。今にも「せんせい、おっはよう！」とドアを開けていつものメンバーが元気に入ってきそうですが、一区切りです。

今年も、四月からの一年間がいつものように終わりました。決まりきった言い方ですが、本当にあつという間の一年でした。初めは少人数での静かで穏やかなスタートでしたが、月日が経つうちにいつの間にかドーンと人数が増えています。毎年のことですが、やはり夏以降に入学した生徒は本当に短い時間にたくさんのこと習得しなければならず、講

師は様々な教材で効果的な学習ができるよう全力で授業に臨みます。

授業だけではありません。守るべき約束、時間に遅れないといった当たり前のこと、言ってはいけない嘘や悪い冗談など何か起きたその時に間髪入れず即話し合いを持って、どうしたら良いのか本気で話します。日本語はまだしっかり理解できないかもしませんが、何が悪いことか、良いことかはしっかりと話し合うことが基本です。

そんなこんなで今年も思い出深いことがたくさんありました。そっと胸にしまって、また新学期新たな気持ちと再生した体力を持って生徒達との新たな出会いを待つことにします。生徒達をいつも優しくサポートしてくださっている方々、今年度も本当にありがとうございました。(藤井)

### <ハートフル>

26年度の荒川区日本語初期指導は16名の中学生を受け入れました。今年度の生徒の来日時期はさまざままで、秋頃から一気に増え、現在指導している生涯学習センターの方達にも外国籍の生徒が日本語を勉強していることを紹介する機会もありました。

毎回、指導の初めに生徒に好きなことを聞きますが、最近ではゲームやアニメという答えをよく聞きます。みんなスマートフォンを持っていて、友達とおしゃべりしたり、アニメを見たり、写真を撮ったり…一人でいても何時間でもやっているようです。生徒達は学校でも家でも誰かと話す時間が少ないとい

感じています。日本語指導では出来るだけ日本語での会話を増やし、勉強以外のことよく話しています。そうすることで、お互いを知り、より良い指導ができると思います。

3月には生徒の在籍中学校へ年度末報告をしに訪問し、その後の学校生活の様子など情報交換できました。日本の学校生活にも慣れて周りの日本語が理解できても、教科の勉強はまだまだ難しく、授業や試験の受け方などそれらの問題に、それぞれの学校で取り出して個別指導をするなどの対応をせざるを得ない状況になっています。今後も教育委員会と学校と連携していくことが大切だと思います。(丹呂)

しんじゅくこう

## くたぶんかフリースクール新宿校>

しんじゅくこう  
新宿校は2014年4月は10名でスタートしましたが、6月や9月に生徒が急増し、最大26名の時もありました。

さいしゅうさてき  
最終的には19名が高校受験をし、全員が高校へ進学することが出来ました。たぶんかフリースクールに来るまでは「ずっと家にいました。友達もいませんでした。」「寂しかったです」「仕事をしていました。」高校へ行っている友達の話を聞いて学び直したいと思いました。」「中学の授業中は寝ていました。日本で人生やり直したいと思いました。」・・そういう生徒一人一人を高校へとつなげられたということは、日本社会への入り口ではありますが、日本で生きていくための第一歩を生徒たちが踏み出せたと思っています。

みな  
皆さまのご支援・ご協力の賜物だと感謝致します。  
しんじゅくこう  
新宿校には、中央線沿線から通う生徒が多く、三鷹市、立川市、東村山市から通う生徒もいました。新宿校は多摩地域などからの生徒を支援する目的で設立されましたので、荒川校までは時間的にも費用的にも通えない生徒にとっては、新宿校の存在意義は大きいと感じています。

しんじゅくこう  
新宿校は3LDKのアパートですから、そこに講師を含め30名近い人がいる状況というのは、かなりの密度の高さです。玄関は来客の方も戸惑うほど靴がぎっしりで、自分の靴を見失うことも。台所ではカッ普ラーメンやおやつを食べながら先生と話す生徒、ふざけてじゃれ合って他の人にぶつかりそうな生徒、その中で先生方は生徒をかき分け授業準備やコピー。トイレはひとつなので、休み時間中に行けず、授業中断もやむを得ず。

がくしゅうかんきょう  
そのような学習環境ですが、放課後も残っている生徒が多く「私は毎日ここで寝たいです。」「18時までいいですか?」と言う生徒もいて、新宿校が居場所となっていることを実感しています。

いってい  
一定の場所を借りて運営するのは厳しい状況ではあると思っていますが、来年度以降も継続して新宿校から生徒を送り出せたらと心より願っています。今後ともどうぞご支援、ご協力をお願い致します。

(加藤)



## くたぶんかフリースクール卒業を祝う会>

がつ  
3月14日に、荒川区の希望の家にて、2014年度たぶんかフリースクールの「卒業を祝う会」を行いました。2014年度の卒業生は55人。いつも応援してくれている支援企業の方やボランティアさんなどたくさんの方にお越しいただき、にぎやかな門で出となりました。

そつぎょうせい  
卒業生の発表では、いちばん最後にできた日本語クラスの生徒もがんばって作文を読みました。昨年の春からたぶんかフリースクールで勉強していく一緒にいる時間が長かった仲良しクラスは、楽しかったフリースクールでの日々の映像をバックに歌を歌いました。受験の前に面接の練習をたくさんして自信をつけていたクラスは、考えた文を暗記して紙を見ないで発表をしました。

さいご  
最後の懇親会では、卒業生たちは支援企業の方やボランティアさんから「がんばってね」と声をかけられて、笑顔で力強くうなづいていました。

あらかわこう  
これまで荒川校と新宿校でわかつて勉強していたけれど春からは同じ高校という生徒たち同士が顔をあわせて、照れながら挨拶をしている姿も見られました。卒業生たちは4月からは高校生。これからが大変ですが、困ったときには助けあいながら、がんばってほしいと思います。(中野)





3月に入っても親子クラスは相変わらず活気にあふれています。私自身は今年に入ってから3人兄弟と勉強することが多くなりました。最初はお互い緊張気味で上手く打ち解けられるか心配していましたが、今は冗談を交わす程に親父が深まりました。

教えると同時に三人の様子を観察し、性格や趣味の差を知るのが毎週の楽しみです。三男は人懐っこく、どんな先生にも愛されやすい「褒めて伸ばす」タイプ。次男は鋭く、頭の回転が早い分少しやんちゃな面があります。例えば、先日彼は私の名前を初めて聞いて、「ナオ（私の下の名前）だと英語でNOW、『今』でしょ」

と突っ込んできました。長男は私から見ると完全なる文系であり、人とコミュニケーションしたいという意欲は誰にも負けないところに感動しました。少しずつ日本の生活に慣れてきている証拠かどうかわかりませんが、先週は今流行りのお笑いネタを口ずさみながら勉強をしていました。

今年もみなさんと楽しく勉強できることを期待し、続けられるよう頑張りたいと思います。（佐藤菜穂）



年が明けてからは受験生の本格的な勉強が始まりました。本来は年が明けてからでは遅いのですが、子どもたちの勉強のエンジンがかかるのは、毎年年明けからです。面接の練習も1月に入つてから本格的に始めました。面接用の設問を考えることから始まり、それを見え、扉を開けて閉めるまでのマナーを含め、何度も練習を行いました。来日してまだ半年もたっていないとか、あるいは長年日本にいるけれど日本語力がままならないなど、面接の練習を始めたばかりはたどたどしい感じで、毎年大丈夫かなと心配します。しかしここから子どもたちの踏ん張りがあります。大丈夫か

なと思うような自信のない子どもも毎週練習を重ねるうちにみるみる上達します。その成長を見守ることは楽しいひと時です。もちろん面接だけでなく筆記試験の勉強も必要で、数学など、受験直前ではできる問題をいかに正確に回答できるかが点数を稼ぐポイントなので、ケアレスミスがなくなるように一緒に問題を繰り返し解きました。

たぶんかフリースクールの卒業式では、新たな門出を祝うと同時に、寂しくもあり、あっという間の一年間でした。そしてほとんどの子が高校に進学することができて、本当に良かったと思います。（大嶺）



# いいね!



facebook.com/tabunkatokyo

## 多文化共生センター東京のできごと

多文化共生センター東京の事務局スタッフが多文化共生センター東京の毎日を Facebook に投稿しています。たくさんの「いいね！」を頂いた記事をここでご紹介させていただきます。



### 59人

のかたが「いいね！」を押してくれました。

3月10日

放課後、土曜日の「卒業を祝う会」での発表の練習をする生徒たち。

「先生、私の好きな言葉を言いたいです。」

「いいと思いますよ。どんな言葉ですか？」

「いちごいちえんです。」…

苺、一円? えらく安いなあ。

「多文化でのいちごいちえんがとても大切です」

…ああ一期一会ね。英語の授業で勉強したもんね。

別の子は最初に言う「こんにちは」が「こんちは」に聞こえてしまうということで、道を歩きながら「こんにちは、こんにちは」と声に出して練習していたら、すれ違った人にびっくりされたとのこと。

まだまだ日本語は難しいですが、面接を経験して話すことに自信を持った生徒たち。当日はメモを見ないで発表にチャレンジします。



### 52人

のかたが「いいね！」を押してくれました。

3月16日

先週の土曜日、盛大に「卒業を祝う会」を行った後の今日、都立高校後期試験の合格発表があり、荒川は4名の生徒が報告にきました。

「合格しました、先生ありがとうございます。」

と入ってきた彼の顔はよろこび半分、なんだか不安げ。その後、ぼそりと・・・

「8月日本に来たとき、日本人の人と話すのが少し怖くて、家の外に出たくなかった。ここに来て、少しずつ日本語で話せるようになってきた気がする。でも、4月からは日本の高校に入ります。入ったら、たぶん先生の言う事ぜんぜんわかりません。入ると思ったら、とても緊張してきた。これから絶対日本語がんばります。」

つい先週まで「遅刻をしない！」と先生に怒っていた彼が急にりりしく、たくましく見えました。

明確な目標がすぐ目の前に迫ったとき、彼の中の何かが変わったのかもしれません。

これからが本当のスタートです。

これからも Facebook に多文化共生センター東京の日常を投稿していきます。

皆様「いいね！」をよろしくお願いします。